官報

第八號　明治十六年七月十日　火曜日

太政官文書局

○布告

○第貳拾三號

明治五年五月第百四拾六號布告鐵道略則及同六年三月第百壹號布告鐵道犯罪罰例ハ私設鐵道ニモ適用ス

右奉　勅旨布告候事

太政大臣　三條實美
工部卿代理
參事院議長山縣有朋

明治十六年七月十日

○達

○內務省達乙第三十四號

明治八年十月本省乙第百三拾三號達廢止候條此旨相達候事

明治十六年七月十日

內務卿山田顯義

○內務省農商務省達乙第三拾五號

明治十五年中ニ褒狀ヲ授與セシ者ノ姓名（共同ノ者ハ會社名或ハ町村名）那區及其種類（人命救助者篤行者又ハ學校病院等ヘ金穀物品ノ寄附者墾田等ヘ出金者及ヒ其金高）一ト廉限リ取調來ル八月三十日マテニ可屆出尤出金者ニシテ褒狀ヲ授與セサルモ同樣可心得此旨相達候事

府縣（東京府ヲ除ク）

本文

但墾田等ニ屬スル分ハ農商務省ヘ其他ハ內務省ヘ屆出ヘシ

明治十六年七月十日

內務卿　山田顯義
農商務卿西鄕從道

○大藏省達第五拾二號

一諸稅監査員提携印章　第二八一二九號

但照合用ノ三字朱印ス

右ハ新潟縣下越後國中頸城郡小石原村戶長竹內傳三郎ヘ下渡ノ分遺失

一諸稅監査員提携印章　第二七五一三號

但照合用ノ三字朱印ス

右ハ新潟縣下越後國南蒲原郡役所於テ各村戶長ヘ下渡ノ節紛失

前書之通屆出候條各警察署（東京府ハ之ヲ除ク）郡區役所戶長役場ヘ相達置發見ノ節ハ速ニ可屆出此旨相達候事

明治十六年七月十日

大藏卿代理
參事院議長山縣有朋

○陸軍省達　甲第二十五號
乙第七十八號

陸軍々醫講習生假規則別冊之通相定候條此旨相達候事

明治十六年七月十日

府縣
陸軍一般

（別冊）

陸軍軍醫講習生假規則

第一條　軍醫講習生ハ陸軍軍醫官ニ出身志願ノ者ヲ撰拔シ東京陸軍病院ニ於テ之ニ要用ナル學術ヲ教授シ卒業ノ上ハ三等軍醫若クハ軍醫試補ニ任シ其職務ヲ奉セシムルモノナリ

第二條　講習生ハ看護長看病卒若クハ華士族平民中醫術開業免狀ヲ所持スル者ニシテ撿査定格ニ合スル者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　講習生ハ入學ノ日ヨリ陸軍一定ノ規則ヲ遵奉セシム故ニ入學後ハ決シテ他志ナク陸軍ニ從事スルノ誓約ヲナサシム

第四條　講習生修學ノ期限ハ五ケ月トス然レ𪜈疾病其他ノ事故ニ由リ豫定ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ尙ホ若干月ヲ延期スルコアル可シ

第五條　講習生修學中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退學スルコヲ許サス然レ𪜈病氣若クハ行狀不正或ハ怠惰ニシテ卒業ノ目途ナキモノハ退學セシム可シ但看護長看病卒ヨリ入學セシ者ハ軍醫部下士若クハ卒トナシ定期ノ年限（前役及生徒修學中ヲ日數ヲ通算ス）ヲ服役セシム

第六條　講習生ハ官費生ト自費生トノ二種トス其官費生ハ修學ノ費用及ヒ居宅衣食ノ料トシテ若干ノ手當金ヲ給シ其自費生ハ一切ノ費用總テ自辨タル可シ但修學上ノ器械物品ハ官給トス

第七條　講習生ハ私宿ニ在テ日々東京陸軍病院ニ通學シ軍醫ノ學術其他ノ事ヲ研究セシム但時宜ニ因リ軍醫ノ手術ヲ補助セシムルコアル可シ

第八條　講習生ハ學期ノ終リニ於テ試驗ヲ行ヒ及第スル者ハ之ヲ優等及ヒ通常ノ二種ニ區別シ各卒業證ヲ授與ス

第九條　講習生ハ試驗ヲ受ルノ後優等卒業證ヲ得タル者ハ三等軍醫ニ通常卒業證ヲ得タル者ハ軍醫試補ニ任スルヲ例トス但優等卒業證ヲ得ル者ト雖モ修學中屢懲罰ノ所斷ヲ受ケシ者等ハ軍醫試補ニ任スルコアル可シ

第十條　講習生ノ召募ハ陸軍卿之ヲ陸軍部內及ヒ府縣ニ達シ其撿査ハ撿査格例ニ準據シ軍醫本部ニ於テ之ヲ爲スヲ例トス故ニ軍醫本部長ハ所要ノ人員並ニ召募ノ時期等ヲ豫メ陸軍卿ニ上申スヘシ但時宜ニ依リ在東京ノ者ノミヲ召募セシムルコアル可シ

第十一條　講習生召募ノ達アレハ陸軍部內ニ在テハ近衞鎭臺又ハ各官廨ニ於テ其志願者ヲ取調ヘ左式ノ書面ニ本人ノ名簿寫並ニ醫術開業免狀寫（下士ニ在テハ科表外ニ考ヲ添ヘ）軍醫本部ニ送附シ各府縣ニ在テハ之ヲ管下ニ達シ志願者ヲシテ第十二條ノ手續ヲ爲サシム可シ

軍醫講習生入學志願人名

隊號（所管）

右軍醫講習生入學志願ニ付名簿寫並ニ醫術開業免狀寫及ヒ考科表相添差出候間御檢査ノ上入學御差許有之度候也

年號月日

（軍醫本部長）

職　官　姓　名　殿

何等看病卒　姓　名

年號月日生
年號月何年何ヶ月

仝
仝

（所管長官）

職　官　姓　名　印

第十二條　華士族平民ヨリ軍醫講習生志願ノ者ハ左式ノ願書ニ履歷書及ヒ醫術開業免狀寫ヲ添ヘ本籍若クハ寄留地府縣ノ奥書證印ヲ受ケ直ニ軍醫本部ニ差出ス可シ

願書式　用紙美濃白紙以下履歷書之ニ同シ

軍醫講習生入學願

某　儀

陸軍出身志願ニ付此度軍醫講習生入學（自費入學）奉願候間御檢査ノ上御採用被下度別紙履歷書並ニ醫術開業免狀寫相添此段奉願候也

何國何郡（區）何町（村）產
何國何郡（區）何町（村）何番地住（寄留）

府（縣）何族（平民）
戶主名何男（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）（附籍）
姓　名　印
年號月日生
年號月何年何ヶ月

身元引受人
府（縣）何族（平民）

年號月日

（軍醫本部長）

職　官　姓　名　殿

前書之通調查候處相違無之候也

東京府下何郡（區）何町（村）何番地住（寄留）
姓　名　印

前書之通相違無之候也

仝

府（縣）何郡（區）何町（村）戶長　戶長アラサル地ハ區長
姓　名　印

仝

府（縣）知事（令）　姓　名　印

履歷書式　書式ニ示ス外履歷ニ係ル者アルトキハ悉ク記載スヘシ

履　歷　書

府（縣）何族（平民）職業
戶主名何男（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）（附籍）
姓　名
年號月日生
年號月何年何ヶ月

一祖父母
何某存亡

一父母（養父母）
仝　仝

此他兄弟姉妹等在籍ノ者ハ皆之ニ準シテ記載ス可シ

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學校（何塾）ニ入リ教師某ニ就テ何學修業

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學研究ノ爲メ何國　外國ヲ云ニ在留

一何年月日何學校（何塾）ニ於テ何學卒業何年月日右證ヲ受ク

一何年月日内務省第何號醫術開業免狀ヲ受ク
一何年月日任何官(補何等出仕)(免本官)(出仕被免)(何省府縣等)
一何年月日何職被申付(月給何圓)(何省府縣等)
一何年月日何ニ依テ賞典何々下賜ル
一何年月日何ノ科ニ依リ何罰被申付
右之通相違無之候也

年號月日

前書之通相違無之候也

本人姓名印
右身元引受人
姓名印
全

府(縣)何郡(區)何町(村)戸長(戸長アラサル地ハ區長)
姓名印

第十三條　看護長看病卒及ヒ華士族平民共撿査ノ上定格左ノ如シ

第一則　年齡三十歳以下ノ者
第二則　体格
第三則　學科

第十四條　華士族平民ヨリスル者撿査合格ノ上入學ヲ命スル者ハ父兄親族其他一家ヲ成ス身元慥ナル者二名(東京居住ノヲ身元引受人ト爲シ官費ノ者ハ左式第一號ノ入學證書ヲ差出サシム者ニ限ル)

第一號證書式(用紙證券界紙第二號證書之ニ同シ)

軍醫講習生入學證書

某儀

陸軍出身志願ニ付此度軍醫講習生官費入學御許可相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕節ハ引受人ヨリ相納可申且本人身上之儀ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可申依テ引受人連署證書如此候也

何國何郡(區)何町(村)產
何國何郡(區)何町(村)何番地住寄留)

府(縣)何族(平民)
戸主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)
姓名印
年號月日生
年號月何年何ケ月

身元引受人

府(縣)何族(平民)
東京府下何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)
姓名印

全
全

府(縣)何郡(區)何町(村)戸長(戸長アラサル地ハ區長)
姓名印

府(縣)知事(令)　姓名印

第二號證書式

軍醫講習生入學證書

陸軍出身志願ニ付此度軍醫講習生自費入學御許可相成候付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且入學中ノ費用ハ御規則之通上納可致候若シ本人上納難致節ハ引受人ヨリ相納可申其他本人身上之儀ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可申依テ引受人連署證書如此候也

何國何郡(區)何町(村)産
何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

府(縣)何族(平民)
戸主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)
姓名　印
年號月日生
年號月何年何ケ月

身元引受人

府(縣)何族(平民)
東京府下何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)
姓名　印

仝

仝

年號月日
(軍醫本部長)
職官姓名殿

前書之通調査候處相違無之候也

仝

仝

府(縣)何郡(區)何町(村)戸長　戸長アラサル地ハ區長
姓名　印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事(令)
姓名　印

第十五條　講習生入學ノ時第三條ノ趣旨ニ基キ左ノ如ク誓文牒ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ證セシム

誓文牒

陸軍出身志願ニ付今般軍醫講習生入學相願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且入學中ハ家事故障ハ勿論假令ヒ病氣ト雖モ自ラ免除ヲ請願致シ候等ノ儀ハ仕間敷候依テ誓文如件

年號月日

姓名　印
仝
仝

○陸軍省達乙第七十七號

將校停年名簿之儀ハ毎年七月一日調ニテ編纂之定ニ候處本年ノ儀ハ七月十日調ヲ以テ編纂候條爲心得此旨相達候事

明治十六年七月十日

陸軍卿大山　巖

○陸軍省達乙第七十九號

今般近衞局ヘ附屬爲致候軍樂隊ノ儀ハ近衞軍樂隊ト相稱候條此旨相達候事

明治十六年七月十日

陸軍卿大山　巖

○陸軍省達乙第八十號

明治十一年當省達乙第百三十四號及第百三十五號達自今廢止ス此旨相達候事

但下士ヲ以テ書記ニ充ツヘキ官廨ニ在テ書記ノ補欠ヲ要スルトキハ再役以上ノ下士ヨリ任用候儀ト可相心得事

明治十六年七月十日

陸軍卿大山　巖

○佝指令

○大藏省

京都府ヨリ卷烟草ノ儀ニ付伺

卷烟草ハ印紙貼用ニ及ハス且ツ烟草營業人ノ外ニ於テ賣買スルモ不苦哉右和伺候也

明治十六年六月十八日

指令

前段申出ノ通後段營業人ノ外販賣不相成

明治十六年六月廿三日

○文部省

青森縣ヨリ學事賞與並ニ奬勵品附與方心得方ノ儀ニ付伺

客歲御省第十五號ヲ以テ學事賞與例並ニ學事奬勵品附與例ヲ被相達其調査具申方心得及豫算書等褒賞課長ヨリノ通報ニ據リ夫々取調具申致候ニ付追テ何分ノ御達可有之然ニ右具申ノ後敎員品行檢定規則又ハ官吏懲戒例重キニ因リ處分シタル者ハ格別左ノ各項ノ場合ニ遭遇セシ者ハ其儘賞與相成候儀ト心得可然哉此段相伺候也

一官吏校長敎員學務委員等ニシテ敎育ニ關係無キ職ニ轉任
一同上免職但依願
一學校ノ規模變換
一廢校
一生徒ノ轉學
一同退學但學科卒業ヲ除ク

以上

明治十六年六月十八日

指令

伺之趣

第三項其前日ノ資格ヲ堅シ奬勵スヘカラスト認ムル者ノ如キハ其事由ヲ具シ可申出事

第四項附與スヘキ限ニ無之ニ付其事由ヲ具シ可申出事

其他都テ伺之通

明治十六年七月九日

○文部省

新潟縣ヨリ小學農學科敎授免許狀授與之儀ニ付伺

新潟縣越後國刈羽郡下山田村

田中治八郎

右之者本縣縣立勸農場ニ於テ專門農學ヲ卒業シ品行方正之者ニ付土地ノ情況ニ因リ加フル所ノ小學農學科敎授適任ノ者ト存候ニ付今般學力ノ檢定ヲ要セス該學科敎授免許狀授與致シ度本人履歷ヲ具シ此段相伺候也

明治十六年六月二十一日

履歷書

新潟縣越後國刈羽郡下山田村

田中治八郎

三十二年

明治八年五月ヨリ同十年十一月迄本縣下當五大區勸業世話掛勸務
同十二年四月縣立新潟勸農場へ入學シ關澄藏ニ就キ算術代數學幾何學（平面立體）三角法鑛物學動物學植物學理學化學（無機有機）分析術農事化學實際農學修業其他製造物ノ傳習ヲ受ケ十四年八月卒業候也

指令　伺之通

明治十六年七月七日

○參事院裁定

○裁定書

新潟縣令　永山盛輝

新潟縣會議長島田茂

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ常置委員議決ノ事件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰ノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

明治十六年通常縣會ニ於テ常置委員ヨリ其會議ニ於テ議決シタル事件ノ報告ヲ受タルニ客歲十月三日ノ洪水ニテ中浦原郡五反田村外六ケ村堤防破潰ニ付縣令ハ同十二月中該工費豫算及其徵收方案ヲ併セ之ヲ該會議ニ付シ其議決ヲ以テ直ニ之ヲ施行セリ右ハ該會會ニ付スヘキモノニ無之其議決無効ナリト確認シ該金劃戻ノ儀縣令ハ開申致シタルモ遂ニ之ヲ採用セス縣令代理人ハ法律ニ準據シタル至當ノ所爲ナリト辨護セリ是ニ於テ見解ヲ異ニシ御裁定ヲ請フニ至レリ

縣令代理人ハ臨時急施ヲ要スル場合ナルヲ以テ府縣會規則第二十七條ニ據リ該會議ニ付シタルハ至當ナリト辨明スト雖モ本會ニ於テハ其臨時急施ヲ要スル場合ナルモノハ即チ縣會ヲ開クノ暇ナキ場合ヲ云シモノニシテ如此日子ニ餘裕アルノ場合ヲ云フニ非スト信認セリ何トナレハ該會ノ議決ヲ要スルノ場合タル眞ニ其止ヲ得サルノ場合ニ限ル可キモノナレハナリ假ニ一步ヲ讓リ縣令代理人カ陳辨ノ如ク臨時急施ヲ要スル場合ナルヲ以テ府縣會規則第二十七條ニ據リ該會議ニ付シ之カ經費ヲ議決セシムルヲ得ルトスルモ其徵收方法ヲ議定スルカ如キハ固ヨリ本會特有ノ權ニシテ該會ニ於テハ權外ナリト確信ス

縣令代理人ハ府縣會規則第三十七條ニ據リ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ其經費ヲ議セシムルヲ得ルニ於テハ併テ其徵收方法ヲモ議決セシムルヲ得ルハ勿論ナリト辨明スト雖モ本會ニ於テハ該會カ其議權ヲ併有セシハ客年第六十八號布告ヲ以テ該條ヲ改正シ及徵收方法ノ五文字ヲ掃入セラレタルノ後ニアリトス何トナレハ其前既ニ該會ニ於テ之カ議權ヲ併有セルモノトセハ故ラニ該條ヲ改正シ更ニ其議權ヲ增附セルカ如キ該文字ヲ挿入セラルヘキ理由ナケレハナリ

右ニ陳辨シタル如クナレハ該議案ハ常置委員會議ニ付スヘキモノニ無之而ノ縣令ハ其法律ニ背馳セル無効ノ議決ヲ採リ施行セシモノナリト確信ス

縣令ノ答辨

縣會ハ明治十五年十二月中浦原郡五反田村外六ケ村破堤修築補助費豫算及徵收方案ヲ常置委員會ニ付シタルハ不當ノ處置ニシテ其議決無効ナリトシ該費劃戻ヲ開申スト雖モ古ハ法律ニ抵觸セシモノニ無之ト信認シ之ヲ採用セサリシナリ

縣會ハ該破堤ノ日ヨリ該經費議決ノ日ニ至ルマテ日子ニ餘裕アルヲ以テ臨時急施ヲ要スル場合無之假ニ一步ヲ讓リ臨時急施ヲ要スル場合トスルモ其徵收方法ヲ議定スルノ權ハ常置委員會ノ權外ナリト謂ト雖モ抑破堤ハ十月三日ニ在リ其經費ノ收出豫算ヲ常置委員會ニ付シタルハ十月十五日ニシテ其議決ハ十二月八日ナリ其間日子ヲ重ヌタルハ該會議事ノ都合ニ出タルモノニシテ其急施ヲ要スルノ事業ナルハ又敢テ辨論ヲ要セス故ニ府縣會規則第二十七條末段ニ依リ常置委員會ノ議決ヲ要シタリ既ニ之カ經費ノ議決ヲ要シタル上ハ其徵收方案ヲモ併セ議定セシムルヲ得ルハ理ノ當ニ然ルヘキモノニシテ府縣會規則第三十七條ノ精神ニ對シ抵觸ノ廉無之ト信認セリ

縣會ハ客年第六十八號布告ヲ以テ該條ヲ改正セラレタル後始テ常置委員會ニ於テ徵收方法ヲ議定スルノ權ヲ有セシモノニシテ其以前ニ在テハ該權ヲ併有セサルモノナリト云フト雖モ前條ニ陳セシ

如ク其經費ヲ議決スルノ權アレハ隨テ其徴收方法ヲ議定スルノ權ナカルヘカラス故ニ該布告以前ニ在テモ該權ヲ有セルモノト確信セリ

右ニ陳辨シタル如ク該議案ヲ常置委員會ニ付シ其議決ヲ以テ施行シタルハ法律ニ背馳シタルモノニ無之ト信認ス

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭フノ要點ハ縣令ハ明治十五年十月三日ノ洪水ノ爲メニ破潰シタル中浦原郡五反田村外六ケ村堤防ノ工費豫算及其徴收方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シテ之ヲ施行スルコトヲ得ルヤ否ニアリ依テ之ヲ審案スルニ縣會ハ府縣會規則第三十七條中臨時急施ヲ要スル場合トハ縣會ヲ開クノ暇ナキ場合ヲ云フモノナリ而シテ五反田村外六ケ村堤防ノ破潰シタルハ十五年十月三日ニシテ縣令カ其工費豫算及徴收方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シタルハ同年十二月ニ在リ此ノ如キハ臨時急施ヲ要スル場合ト云フノ限ニアラスト雖モ洪水ノ爲メニ破潰シタル堤防ヲ修繕スルカ如キハ固ヨリ臨時急施ヲ要スルモノナリ且縣會ヨリ呈出シタル關係書類ニ由テ之ヲ徴スルニ縣令カ其工費豫算及徴收方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シタルハ實ニ同年十月十五日ニシテ常置委員ニ於テ之ヲ議決シタルコト十二月八日ニ在リ然ラハ則チ十月十五日ヨリ十二月八日マテノ日子ハ常置委員カ會議ノ爲メニ費シタルモノニシテ縣令ノ與カリ知ル所ニアラス又縣會ハ常置委員ハ十五年十二月第六十八號布告ニ由リ初テ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ經費ノ豫算ト其徴收方法トヲ併セテ議決スルノ權ヲ得タル者ナレハ該布告發行前ニ於テ常置委員ノ議決ニ付スルコトヲ得ルハ經費ノ豫算ニ止マリ其徴收方法ハ縣會ノ議定ヲ經サルヘカラスト陳述スレトモ府縣會規則第三十七條ノ但文ニ其經費ヲ議決シトアルハ即チ其經費ノ豫算及徴收方法ヲ議決スルモノニシテ十五年十二第六十八號ノ布告ハ只其文ノ誤解ナカラシメン爲メ之ヲ明示シタルニ過キサレハ常置委員ハ該布告發行前ト雖モ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ經費ノ豫算ト其徴收方法トヲ併セテ議決スルノ權ヲ有スルモノトス

判決

右ノ理由ニ依リ縣令カ洪水ノ爲メニ破潰シタル堤防ノ工費豫算及其徴收方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シテ之ヲ施行シタルハ法律ニ反セサルモノトス

明治十六年七月四日

審理委員長　參事院議長　山縣有朋
審理委員　參事院議官　鶴田皓
審理委員　參事院議官　尾崎三良
審理委員　參事院議官　小森澤長政
審理委員　參事院議官補　廣瀨進一
審理委員　參事院議官補　久保田貫一
審理委員　參事院議官補　黒田綱彦

○官廳彙報

○松方大藏卿ハ昨九日長崎ヘ着シタル旨電報アリタリ

○野村驛遞總官ハ本月五日加賀國金澤ニ到着シタル旨電報アリタリ

○米國紐育領事高橋新吉ハ昨九日同國波士敦府外國製造技術及工業品博覽會事務官ヲ命セラレタリ

○病氣療養ノ爲メ豫テ豆州熱海温泉ヘ入谷中ナリシ農商務權少書記官大槻吉直ハ本月七日歸京シタリ

○名古屋始審裁判所撿事益田勇ハ本月七日上京セリ

○從五位戸田忠綱ハ昨九日滋宮祇候仰付ケラレタリ

○内務省准奏任御用掛大谷順三ハ神宮司廳並木曾大坂府ヘ同石黒五十二ハ豆州熱海ヘ同宮之原誠藏ハ長野縣下道路開鑿工事監督トシテ清水越開鑿工事ノ都合ニ依リ時々同縣下ヘ各〻昨九日出張ヲ命セラレタリ

○高知縣下高岡大内二村ノ人民ハ其後八百人計リ集合シ尚增長ノ勢アリ依テ更ニ警部二名巡査十名ヲ派遣シタル處漸次解散鎮定ノ模樣ナル旨昨日同縣ヨリ電報アリタリ

○栃木縣管下下野國下都賀郡甲村小笠原長一ハ客年五月中壹反ニ罹リタル窮民ヘ種穀用トシテ大麥六石ヲ施與セシニ付本月五日木盃壹個ヲ賞與セラレタリ

○栃木縣ニ於テ今般郡役所戸長役場巡視條規ヲ左ノ如ク制定シタリ

第一條　臨時巡視官ヲ郡役所及戸長役場ニ派遣スヘシ
但シ時宜ニ依リ警察署監獄署學校病院等ニモ臨監スルコアルヘシ

第二條　巡視官ハ臨時特選ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　巡視官ハ法律規則實施ノ景況及其ノ事務ノ衆否利弊ヲ視察シ並其ノ治蹟ヲ考フヘシ

第四條　巡視官ハ各郡役所戸長役場ニ臨ミ主任者ニ就キ事務ノ狀況ヲ訪問シ其ノ繙冊文書ヲ實撿スルコアルヘシ直ニ其ノ事務ニ干預スルヲ得ス

第五條　郡長戸長ハ職務上ニ關スル事項ニ付テハ何事タリトモ巡視官ノ質議ニ應セサルヲ得ス

第六條　巡視官ハ巡視中ノ狀況ヲ摘錄シ復命書ヲ作リ縣令ヘ差出スヘシ

○京都府ヨリ學事賞與例ニ關スル調査具申ノ件ニ付文部省褒賞課ヘ尋問並回答

當テ甲地ニ於テ功績又ハ盡力ノ證跡アリテ既ニ乙地ニ轉住セル者ハ其人ノ有無非職ヲ問ハス實跡ノ存在セル府縣ヨリ調査具申スヘキ歟又死亡者ニシテ功績又ハ盡力ノ成績アル者ハ何レノ年代迄溯リ調査可然歟（摘錄）

明治十六年六月二十三日

右回答

前段　御尋問之通

後段　學制頒布以後ノ目的ニ有之候事

明治十六年七月七日

○正誤

○官報第六號農工商事項欄内外國貿易月報ノ上ニ五月分ノ二字ヲ脱シ同項中輸出之部佛蘭西金貨壹千五百拾圓〇〇五拾錢〇二厘ハ壹千五百拾〇圓五拾〇錢二厘ノ誤又同部中小計ノ次ナル日本銀貨ハ銅貨ノ誤ナリ

○兵事

○ローマニヤ國ノ軍備　ローマニヤ政府ハ農兵ノ爲ニ「ベルダン」銃五千挺及藥包三百萬個ヲ露國ニ依賴シタリ而シテローマニヤ國ノ軍器購買ノ定額ハ貳萬貳千磅ナリト(五月十九日刊行佛國デバ新聞)

○瑞典國兵制　同國ノ下院ニ於テハ六十二ニ對スル百三十五ノ多數ヲ以テ從來ノ常備軍ヲ改革スルノ議ヲ可決シタリ從來瑞典國ノ常備軍ハ二種ノ兵ヲ以テ之ヲ組織シ一ハ徵募兵一ハ屯田兵ナリシカ今回屯田兵ヲ廢シ盡ク徵募兵ヲ以テ之ヲ組織スルヿト爲シタリ(五月十九日刊行佛國デバ新聞)

○學事

○明治十四年府縣公立小學校授業料有無表
此表ハ各府縣ヨリ申報セル明治十四年學事年報ニ就キ現在公立小學校中生徒授業料ヲ收ムルモノト收メサルモノトヲ調査セシモノナリ

府縣	校數	授業料ヲ收ムルモノ	授業料ヲ收メサルモノ
東京	一九三	一七一	二二
京都	四八○	一○一	三七九
大阪	一、○六一	六六	九九五
神奈川	五二二	二八二	二四○
兵庫	七七一	一五九	六一二
長崎	八四六	三二五	五二一
新潟	九五九	一一五	八四四
埼玉	七二二	四四四	二七八
千葉	八○三	五九三	二一○
茨城	八一五	六一六	一九九
群馬	五八七	四○七	一八○
栃木	四九二	二六六	二二六
三重	八○八	四九四	三一四
愛知	一、○一二	三○二	七一○
静岡	六八○	三一一	三六九
山梨	二九七	一二九	一六八
滋賀	六七六	一五九	五一七
岐阜	六八三	四○二	二八一
長野	八二一	三四二	四七九
宮城	四三一	九四	三三七
福島	八五四	一四六	七○八
岩手	五八五	一五八	四二七
青森	四八六	二四七	二三九
山形	五四九	二六三	二八六
秋田	四六二	三二三	一三九
福井	五七○	三九	五三一
石川	一、○七○	八七	九八三
鳥取	三一○	一九一	一一九
島根	六五九	二三四	四二五
岡山	七五八	七七	六八一
廣島	九六三	一一一	八五二
山口	八三四	五八九	二四五
和歌山	七○六	三三八	三六八
徳島	四八三	一九○	二九三
愛媛	一、二八五	四○一	八八四
高知	五九六	三九八	一九八
福岡	七九六	二九四	五○二
大分	五五二	二六九	二八三
熊本	七八三	四八三	三○○
鹿兒島	一、○○八	一五九	八四九
沖縄	一九	……	一九
合計	二七、九八七	一○、七七五	一七、二一二

○植物ト電光トノ關係　學士シーメンスハ近頃倫敦學術協會ニ於テ電光ハ植物ノ發成ヲ促スノ作用アルヿヲ演說シタリ是氏カ積年ノ經驗ニ由テ得タルモノニシテ其ノ說ニ曰ク常ニ電光ノ作用ヲ受クル所ノ植物ハ之ヲ受ケサル植物ニ比スレハ發育成長スルヿ速ナリトハ現ニ我カ伯林府ライプチーゲル街ニ於テ其ノ一證ヲ見ルヘシ該街ノ北側ナルブランデンブルグ侯ノ記念碑ニ接シテ數株ノ菩提樹アリ其ノ中央ノ一樹ニ直接シテ一基ノ電氣燈アリ該燈ニ面シタル枝上ニハ既ニ嫩葉ヲ生シタルヲ見レ𪜈之ニ背キタル枝ハ尙禿澤ニシテ他樹ハ未タ冬眠ヲ破リシモノアラス(五月五日刊行北獨普通新聞)

○農學校合併(岐阜縣報告)　本月一日岐阜縣農學校ヲ岐阜縣華陽學校ヘ合併シ同校內ニ師範學部、農學部、中學部ノ三部ヲ置ケリ

○衛生事項

○傳染病患者(茨城縣報告)　茨城縣下ニ於テ本年一月ヨリ六月ニ至ルマテ半箇年間各傳染病患者ノ種類並惣數ハ左ノ如シ

		男	女		
類似虎列拉病	患者	三	一	人內	未治四人
腸窒扶斯	患者	十五	十二	人內	死亡八人　未治九人　全治十人
實布垤利亞	患者	二	二	人內	死亡三人　全治一人
發疹窒扶斯	患者	一	一	人內	全治二人
痘瘡	患者	一	四	人內	全治五人
合計	患者四十二人內	廿二人	廿人		死亡十一人　未治十三人　全治十八人

○虎列拉病流行(衛生局報告)　虎列剌病ダメーエダ地方(埃及ノ一都市ニシテ「ナイル」河近傍ニ在リ)ニ發生シ僅々兩三日中ニ患者拾壹人死亡セリ(六月廿五日倫敦發電報)亞細亞虎列拉ハダメーエダ地方ニ於テ漸々增殖スルノ景況アリ(六月廿六日倫敦發電報)埃及ニ於テ虎列拉病漸々蔓延スルヲ以テ人民ハ多ク該地ヲ逃避スルノ景況ナリ(六月廿七日倫敦發電報)又淸國廣東ノ汕頭(スワトー)ニ於テ虎列病拉流行ノ旨在香港領事ヨリ昨日電報アリタリ

○虎列拉輕症(石川縣報告)　石川縣加賀國石川郡松任町ニ於テ同郡宮永村平民日稼業宮川次郎助(五十二年七月三日)ハ虎列拉輕症ニ罹リ目下治療中ナリ

○農工商事項

○文派織(農商務省報告)　安永年間大坂府和泉國日根郡樽井村ニ大津屋新助(現今絶家)ト稱スル者アリ其ノ妻紀州那賀郡井白村產ニテ文派織ヲ能クシ自ラ紡績シタル綿絲ヲ以テ之ヲ織出シ其ノ販賣ヲ試タルニ價格紀州產ト軒輊アルヿナシ隣近相倣ヒテ織事漸ク廣マル文化年間ニ及ヒ尾崎、波有手ノ二村ニ於テモ盛ニ之ニ從事スルニ至レリ而シテ其ノ業終ニ織元、出機ノ二ニ分レ織元ハ別ニ工場ヲ設ケス原質ヲ各家ニ交付シ出機ハ若干ノ賃銀ヲ得テ之ヲ織ル(當時ノ賃銀詳ナラス現今ハ壹段七八錢ノ外ニ出テス)其ノ織物ハ文派屋ニ渡シ之カ整理ヲナサシムルモノトス又其ノ原質タル縱絲ハ一切紀州綛ヲ用ヒ橫絲ハ打綿ヲ數村ニ交付シテ紡績セシムルモノトス(當時ノ賃銀詳ナラス現今ハ日方三百五拾匁ヲ紡キテ五錢乃至七錢ヲ得)天保年間幕府令シテ奢侈ヲ制シ絹布ノ類一切之カ使用ヲ許サス是ニ於テ該業俄ニ隆盛ノ色ヲ顯シ營業者ノ數日ヲ逐ヒテ增加スルタメ出機ノ織工數村ニ起リ紡績ノ業手ハ男里、貝掛、箱作、淡輪、深日、谷川、小島、孝子等ノ諸村ニ滿チ其ノ織元タル樽井尾崎有手ノ三村ハ一般ニ人口ヲ增殖シ就中樽井村ノ如キ安永度ニハ貳百餘戶ニ滿タサリシモノモ天保度ニ及ヒテハ四百五十有餘戶ノ多キニ上リ明治十六年ノ今日ニ在リテハ五百拾四戶ノ大村ヲナスニ至レリ通商互市ノ道一タヒ開ケテヨリ以來金巾ノ輸入年ヲ逐ヒテ增加シ爲ニ該業ノ進步ヲ妨クル鮮小ナラサルノミナラス强靱ニシテ久キニ堪フルノ紀州綛ハ其ノ價不廉ナルカタメ遂ニ原質タルノ地位ヲ退ケラレ舶來ノ綿絲之カ代用ヲナスニ至リ爾後漸ク鎭臺兵ノ用服ノ裏ニ用ヒラレ若クハ支那輸出ノ料トナルヲ得タリト雖秪舊來ノ面目ヲ保チ難キノミナラス其ノ長所タル固有ノ良質ハ今ヤ殆地ヲ掃ハントス數村組合法ハ從來三箇村ヲ團結シ各村二名ノ年行司ヲ置キ每歲一日相集會シテ專ラ織工ノ賃錢ヲ一定シ昔時ニ在

第8号 本文

リテハ此ノ組合ニ入ラサレハ其ノ業ヲ營ムヲ得サリシモ今ヤ此ノ遺制隳レテ往々濫造粗製ノ弊ヲ此ノ組合外ニ發出スルニ至レリ文派ノ種類ハ長尺(三丈ヲ以テ壹段トナシ其ノ價金壹圓九拾錢ヨリ壹圓廿錢迄)並物(貳丈五尺ヲ以テ壹段トナシ七拾錢ヨリ五拾錢迄)ノ二種トス原質ノ仕入地ハ舶來品ヲ堺大坂ニ繰綿ヲ堺大坂岸和田等ノ各地ニ取リ製綿ノ仕向先ハ大坂堺若クハ東京北國九州阿波西京大津等ノ各地方トス今其ノ安永度以來增減ノ高ヲ左ニ掲ク

増減表

年暦	織元出機 郡名 村數	紡績 郡名 村數	産出高	代價	織元出機 戸數
安永年間 凡三十年	日根郡 一ヶ村	ナシ			織元出機ノ別ナシ 一戸
文化年間 凡三十年	仝 三ヶ村	日根郡 五ヶ村	凡拾萬反	三萬圓	織貳拾戸 出四百廿戸
天保年間 凡三十三年	仝 四ヶ村	仝 仝	拾七萬貳千貳百反	壹萬千貳百八拾圓	織四拾戸 出千戸
慶應年間 凡十年	仝 仝	仝 九ヶ村	七萬千五百反	三萬五千貳百圓	織三拾貳戸 出五百七拾戸
明治十年	仝 仝	仝 仝	廿貳萬五千反	拾五萬七千五百圓	織六拾八戸 出千三百貳拾戸
仝十五年	仝 仝	仝 仝	廿壹萬三千四百反	拾壹萬貳千圓	織六拾五戸 出千貳百五拾戸

但シ明治十年以來ノ產額及製造戸數ハ既ニ增加スト雖舶來品ヲ用ヒ之ヲ製スルヲ以テ品位漸降リ且金位ノ差アルカタメ天保年度ノ景狀ハ今日ニ見ルヿヲ得サルナリ

○鷄糞ノ効益(農商務省報告)　茨城縣下常陸國ニテハ俗ニ鷄糞ヲ肥料トナスヿハ其ノ毒人ヲ害スト稱シ之ヲ瓜蔬類ニ用フル者ナカリシカ同國多賀郡神岡上村ノ二田兼二ナル者客歳試ニ鷄糞ヲ葡萄桑ノ二種ニ施用シタルニ其ノ成長繁茂頗ル宜キヲ得タリ因テ其ノ害毒ノ有無ヲ農商務省農務局ニ質問シ同局ヨリ鷄糞ハ穀菜等ニ用ヒ有效ノ肥料ニシテ且其ノ成分ハ人体ヲ害スヘキ理ナシトノ回答ヲ得タレハ爾來專ラ之ヲ施用スルニ至レリ然ルニ同國行方郡ニテハ依然鷄糞ノ害毒ヲ說キ價ヲ論セスシテ之ヲ賣却シ或ハ放棄スル者アルヲ以テ同郡潮來村石田禰ナル者大ニ之ヲ惜ミ自ラ穀瓜蔬菜ノ肥料ニ施シ且李時珍ノ著述シタル花鏡ニ鷄糞ハ百合ノ肥料ニ適スト記セルヲ見テ早速之ヲ百合圃ニ試シニ其ノ說ニ違ハス根塊纍々肥長シ其ノ味モ亦脆美ナリシト云フ

○蟲害(京都府報告)　丹後國加佐郡山林中其ノ收入ノ最多額ナル𤖹子桐ノ蟲害ハ今ヲ距ルヿ八九年前ヨリ年々蔓延シ近年ニ至リテハ其ノ收獲殆ト四分一以內ニ減セリ尙本年モ該蟲害ノ勢最盛ナル趣同郡長ヨリ報シ越セリ尤該蟲ノ驅除法ハ目今研究中ナリ

○舩舶出入數　六月中大阪港舩舶出入惣數出港ハ汽舩三百貳拾六艘西洋形風帆舩拾貳艘入港ハ汽舩三百拾貳艘西洋形風帆船拾壹艘ナリ

○米穀收穫見込(栃木縣報告)　本年ハ米價ノ下落ノ影響ニ因リ栃木縣下ノ米穀ハ秋季ノ收穫高ヲ減少スヘキ見込アリ盖米價ノ下落ニ比スレハ肥料ハ尙頗高價ニシテ農家ノ經濟得失相償ハサルヲ以テ陸稻ノ如キハ其ノ作リ附ケヲ減シ水田ト雖入レ作ノ如キハ小作米ノ減額ヲ約シテ後ニ耕耘ニ着手スルアリ或ハ直ニ地主ニ返附スルモノアルノミナラス例年ノ如ク播種スルモ其ノ收穫ニ至リテハ必若干ノ減額アルヘシト思ハル何トナレハ農家一般ニ金融ニ困ミ其ノ肥料ニ供スル干鰯絞粕等ノ購入ハ極メテ少ク石灰ノ如キモ大ニ購買ノ額ヲ減シタレハナリ現ニ管下上都賀下都賀及安蘇ノ三郡(共ニ下野國)ハ石灰產出ノ地方ニシテ年々肥料トシテ販賣スル高頗多額ナリシニ今年ハ頓ニ其ノ額ヲ減シタルヲ以テ農家肥料ノ需用一般ニ減少シタルヲ知ルニ足レリ此ノ如ク肥料ノ需用減シタルヲ以テ假令氣候ノ平順ヲ得ルモ本年秋季ノ收穫ハ到底減額スヘシ

○米國輸入茶　波士敦(ボストン)商報ニ據ルニ紐育稅關鑑定官ハ新條例ニ準據シテ前一週間ニ於テ支那茶七拾五包ヲ取押ヘ衛生局亦無慮三千包ヲ擯斥シテ其ノ販賣ヲ禁シタリ斯ノ如ク不良茶ノ我カ市場ニ驀入スルハ宿弊ノ致ス所ニシテ從來我カ市場ハ實ニ贋造濫製品ノ淵叢タリキ盖英國ニ於テハ早ク此ノ不良品ヲ擱止シ其ノ售路ヲ得ヘタルカ故ニ專我カ國ニ輸入セルナリ此ノ贋造ニ係ルモノハ其ノ元價甚低ク之ヲ攬賣スルニ壹封度拾貳仙若クハ貳拾仙ノ間ニ在リ是ヲ以テ買者太多ク賣者太利アリ之ニ反シテ較良好ニシテ一封度貳拾五仙以上四拾仙許ニ抵ルモノハ之ヲ販賣スルニ於テ大ナル益ナシ是ニ由テ良品ハ竟ニ不良品ニ壓セラレテ市場ヲ拂フニ至レリ今ヤ米國ノ諸市場ヲ見ルニ復六年前ニ於ケルカ如キ良茶ナシ近年支那及日本製茶ノ著シク其ノ品位ヲ墜セシモ畢竟我カ國人ノ誘致スル所ニシテ彼ノ製造ニ從事スルモノ漸〻劣品ノ却テ利多キヲ見ルニ由ルナリ此等ノ劣品ハ大概石礆石、石膏、洋靛若クハ藍靛等ノ如キ化學藥ヲ以テ之ヲ裝シ或ハ不正ノ葉、淪過シタル葉、又ハ腐爛シタル葉ヲ參雜ス其ノ形狀色澤ハ婉然愛スヘキモ之ヲ喫スレハ往々害アリ支那日本ニ於テハ最貧ノ人ト雖尙此ノ如キモノヲ用ヒサルヘシ

新條例ヲ實施スルニ由テ拒却スル所ノ茶、惟フニ年々壹千萬封度ヲ減セサルヘシ目下我カ國ノ消費額ハ六千五百萬磅內外ナルニ前年輸入ノ總額ハ八千萬封度ニ及ヘリ即輸入ノ需用ニ超ユルヿ千五百萬封度トス是多クハ贋造ニ係ル現ニ日本ヨリ輸入スルモノハ大抵三千五百萬封度ナルカ其ノ內三千萬封度ハ化學藥ヲ以テ着色セリ綠茶ハ其ノ何國ヨリ輸入スルヲ問ハス概シテ化學上ノ擬色ヲ帶フ其ノ洋靛ヲ以テ着色シタルモノ凡六百萬封度日本下等品五百萬封度ハ應ニ禁止セラルヘキヿ明ナリト雖其ノ他ハ果シテ禁セラルヽヤ否未之ヲ審ニセス

之ヲ要スルニ新條例實施ノ後下等及不正ノ茶ハ其ノ販路ヲ失フヘキハ必然ニシテ竟ニ支那及日本製茶家亦自ヲ改良ノ念ヲ起シ我カ需用從ヒテ多キヲ加ヘ今ハ僅ニ一人壹封度半ノ割合ニ過キサルモ終ニ英人ノ如ク四封度餘ヲ用フルニ至ランカ

紐育衛生局ハ市場ノ茶ヲ撿査シ其ノ害アリト認定スルモノヽ販賣ヲ禁スルノ權アルハ既ニ前文ニ於テ之ヲ證スヘク馬薩諸塞(マスサキユセット)衛生局亦此ノ權ヲ有セリ(七月六日刊行ヘラルド)

○外報

○伊國內閣　伊國內閣長デプレチスハ本日(五月二十二日)議院ニ於テ內閣ト議相叶ハサル事アリ內閣員各〻其ノ職ヲ辭スルヿ相當ナリト思量セシニ由リ辭表ヲ捧ケシニ皇帝ハ卽之ヲ御受領アリテ更ニ內閣ヲ組織スヘシ尤新任御沙汰アル迄ハ舊員ニ於テ事務ヲ處理スヘキ旨勅宣アリタリ(五月二十五日倫敦タイムス)

○馬達加斯(マダガスカル)　佛國「ラムプス」新聞ハ馬達加斯事件ニ關スル一報ヲ登錄シタリ其ノ報ニ曰ク今朝海軍卿ハ內閣會議ニ於テ昨日印土艦隊提督ピユールヨリ達シタル電報ヲ讀示シ且提督ハ始メテ政府ノ訓令ヲ實施スルニ着手シ曾テ馬政府カ我カ權利ヲ無視シテ我ノ監督地タルサカラハニ設置シタル兵營ヲ破壞シ尋イテマザンガノ稅廠ヲ略取シ屯兵ヲ驅逐シタル旨ヲ陳述シタリ惟フニ稅廠ヲ略取スルハ馬政府ヲ鎮壓スル好手段ニシテ且以テ馬政府ニ對スル要求ノ抵償物トナスヘシ盖提督ハ啻ニ我カ條約ニ因テ得タル權利ヲ鞏固ニスルノミナラス又馬政府ニ向ヒテ其ノ近頃英獨米等ニ許與シタルカ如キ財產所有權ヲ我カ佛人ニ得セシメンヿヲ要求スヘシ(五月廿五日刊行倫敦「タイムス」)

第8号 本文

○獨伊通商航海條約　伊國全權大使ラウナイ侯及獨國兩全權委員即財務尚書ブルヒヤルド外務局長ボヤノウスキーハ昨夜獨伊兩國ノ通商航海新條約書ニ署名シタリト云フ（五月五日刊行北獨普通新聞）

○氣象

○東京海軍觀象臺報告

七月九日	午前九時	午後三時
風雨鍼 英寸	廿九寸五七〇	廿九寸七三〇
寒暑鍼 華氏	六十四度	七十〇度五
濕氣 一ヨリ百ニ至ル	九十九	八十二
風 方位 八點ニ區分ス	北	南
風 速力 英里	十七里	十九里
天候 陰部一ヨリ十ニ至ル	雨　陰部十	微晴　陰部九

記事

寒暑鍼高極七十度五低極五十九度〇（午前零時ヨリ午後三時ニ至ル間ノ實驗）

雨量四寸八四（昨日午後三時ヨリ本日午後三時ニ至ル）

天候ハ昨日午前ヨリ引續キ降雨午後四時頃ヨリ稍強ク同九時過ヨリ益劇ク今曉ニ至リ風勢漸々衰フルニ從テ雨量稍減スト雖モ爾後歇ムコトナク午後一時頃ニ至テ歇ミ南東方ニ當リ僅ニ蒼天ヲ觀ル風ハ昨日午後三時方位北々東後漸々逆轉シ速力ハ平均十七里弱同九時方位全ク北々西ト成リ後北西或ハ北々西ナリ速力是レヨリ稍強ヲ加ヘ今午前三時迄平均廿二里弱同四時ニ於テ最強廿八里餘爾後同七時迄ハ平均廿四里後稍減衰シ同九時過迄平均十八里餘後大ニ衰ヒ同十一時ヨリ方位漸々南方ニ逆轉シ速力復次第増加ス風雨鍼ハ昨日午後ヨリ漸々低下スト雖モ今午前九時後ヨリ稍上昇ノ勢ヲ生セリ

○地理局報告

明治十六年七月九日京都時午前六時東京時午前六時十六分長崎時午前五時三十六分

摘要　晴雨計低度ノ位置南東海岸ノ沖ニアリ而シテ最高氣壓ハ北東部ニアリ○北及東部ニ於テハ東風、南東海岸ニ於テハ北西風、西及南西部ニ於テハ概シテ靜穩ナリ○天氣ハ陰鬱或ハ雨ニシテ南東部ニ於テハ前廿四時間ニ大雨降リ全北部ハ寒冷ニシテ極南部ハ温暖ナリ○野蒜及秋田ヨリ北方ノ海岸ヘ警報ヲ發セリ

○晴雨計ハ佛厘（ミリメートル）ヲ用フ○風向ハ眞方向ヲ示ス○風力ハ配法零ヨリ六ニ至ル（〇ハ靜穩一ハ軟風二ハ和風三ハ疾風四ハ強風五ハ暴風六ハ颶風）ヲ示ス○雨量ハ前二十四時間ノ量ヲ示ス○温度ハ蔭所ニ於テ攝氏ノ度ニ從フ（氷點ハ〇氷點上ノ十及二十度ハ一〇、二〇氷點下ノ十及二十度ハ九〇、八〇）

測候所	晴雨計	風向	風力	雨量	温度	記事
長崎	七五六		〇		二一	曇
鹿兒島	七五五	北	一		二三	同
宮崎	七五六		〇		二二	同
高知	七五六		〇	四	二〇	同
和歌山	七五九		〇		一九	晴
廣島	七五六	北東	一		一九	快晴
大坂	七五六	北	二		一九	曇
京都	七五七		〇	七	一七	同
下ノ關	七五七		〇		一八	同
境	七五七		〇	三	一九	同
金澤	七五六		〇		一九	同
岐阜	七五六		〇		一九	雨
濱松	七五四	北西	一	五	一九	曇
沼津	七五三	西	二	六二	一七	雨
東京	七五〇	北西	三	一二二	一六	同
新潟	七五六		〇	一	一八	曇
秋田	七五九	北東	一		一七	同
野蒜	七五九	東	三		一八	同
宮古	七六二	東	一		一六	同
青森	七六一		〇		一七	同
函館	七六三	東	三		一五	雨
札幌	七六二	南東	三		一七	烟霧

正誤　官報第六號地理局報告氣象雨量ノ欄內京都ノ下一〇ヲ脫ス

○廣告

○第百八國立銀行紙幣引換廣告

須賀川第百八國立銀行ノ發行紙幣通用差停候ニ付右所持主ハ來明治十七年十一月三十日限リ各國立銀行又ハ當省爲換方（各地方ニテ國税等取扱フモノ）ヘ申出引換フヘシ若シ期限內ニ申出サル者ハ一切引換サルヘシ

明治十六年五月　大藏省

○第百八國立銀行債主ヘ廣告

須賀川第百八國立銀行ニ貸金預ケ金其他可受取勘定アル者ハ本年八月二十一日限リ該銀行須賀川本店又ハ東京支店ヘ可申出若シ期限內ニ申出サル者ハ鎖店ノ分配ニ加ヘサルヘシ

明治十六年五月　大藏省

○紙幣燒却廣告

紙幣三百壹萬五千七百圓本月八日ヨリ向五日間（雨天ハ順延）午前八時ヨリ午後二時迄印刷局構內ニ於テ燒却候條人民縱覽差許候事

但縱覽人ハ神田橋內非常門ヨリ通行可致候事

明治十六年七月　大藏省

○書籍刊行廣告

元老院藏版

元老院少書記官　横山由清　纂

元老院權中書記生　佐藤誠實　校

元老院議官　細川潤次郎　閱

舊典類纂　田制篇（全部拾壹冊定價五圓六拾錢）

右刊行ス（東京々橋區南傳馬町二丁目穴山篤太郎ヘ發賣允許ス）

明治十六年七月　元老院

○海員試驗閉場廣告

來ル八月一日ヨリ仝三十一日迄內國人海員技術試驗閉場ス

右廣告候事

明治十六年七月　農商務省管船局

○東京大學豫備門生徒募集廣告

過般廣告及置候通當門本黌第一級ヨリ第三級マテ各級ヘ生徒ヲ再募シ九月上旬試業ノ上合格ノ者ハ人員ヲ限リ入學可差許ニ付右志願ノ者ハ來八月一日ヨリ同廿日マテニ學業履歷書ヲ添ヘ出願スヘシ此旨廣告候事

但入學願書學業履歷書記載方等ハ出頭ノ上敎場掛ニテ承合スヘシ

第三級（最下級）入學試業課目

釋解（譯讀反譯　萬國史（スウイントン）英國史（グードリッチ）・第四讀本（サンダル）ノ類）

文法（字學解剖）　算術（終リマテ）

代數（一次方程式（トツドホンター（小））終リマテ）

幾何（第三ノ卷（ロビンソン）終リマテ）　地理（總體大意）

和漢文（日本外史講義）

明治十六年七月　東京大學豫備門

○東京大學文學部附屬古典講習科乙部（漢學專修）生徒募集廣告

東京大學文學部附屬古典講習科乙部生徒欠員ニ付補欠トシテ官費生十二人以內自費生八人以內ヲ限リ入學可差許候條志願之者ハ來ル八月卅一日マテニ願書ニ學業履歷書ヲ添ヘ（各二通）本學敎務課ヘ自身持參可致此旨廣告候事

入學試業課目及ヒ資格

一經書辨書　書經

一歷史答辨　左傳　史記

一席上作文　三百字以上五百字以下

一年齡二十年以上三十年未滿

一身體壯健ニシテ天然痘又ハ種痘ヲ了リタル者

明治十六年七月　東京大學

○出版廣告

明治十六年一月十八日出版々權屆

一教育辭林（木村一歩譯）第拾五冊　定價金拾五錢

右刊行ス　文部省會計局

○浮標碇置廣告

明石海峽ノ東口ナル平磯浮標流失ノ旨兼テ諸新聞紙ヲ以テ及廣告候處今般舊位置ヘ碇置セリ此段廣告ス

明治十六年七月　横濱燈臺局

○貯金預所開設廣告

七月二十日ヨリ肥後國玉名郡繁根木村日野又三郎方ヘ驛遞局貯金預所ヲ開設シ同人ヲシテ事務ヲ取扱ハシム

右廣告候也

明治十六年七月十日　驛遞局

○鐵道負傷人廣告

本月七日午前五時過鐵道線路巡回ノ者鶴見橋ト同所停車場トノ間ニ於テ年齡廿七八歳ト覺シキ人足体ノ者面部二ケ所ニ傷ヲ負ヒ倒レ居タルヲ見出シタルニ付直ニ同所ノ戸長ニ報シ醫師ヲ聘シ診斷セシメタル處前夜汽車ニ觸レ負傷セシ者ト認定シタレドモ言語モ通セザル大傷ナレハ其ノ姓名モ事由モ知ルニ由ナク依テ負傷人ハ戸長ヘ引渡シタリ

明治十六年七月十日　鐵道局

○電信料廣告

本月九日以後清國「カアウルン」（香港ノ對岸）ト廣東トノ間ニ線路ヲ開キ電報一語ニ付墨銀六仙ツヽ香港迄ノ料金ヘ併加徵收ス

右瑞西國萬國電信事務局ヨリ通知有之候條此旨廣告候事

明治十六年七月十日　電信局

○東京女子師範學校附屬高等女學校生徒募集廣告

來九月當校附屬高等女學校生徒三十名試業ノ上入學ヲ許ス小學六箇年以上ノ課程ヲ卒リ若クハ之ニ相當セル學力ヲ有シ品行端正體質健康ニシテ入學志願ノ者ハ來八月一日ヨリ同月二十日迄ニ當校ヘ申出ヘシ

明治十六年七月　東京女子師範學校

○女子師範生徒募集廣告

來九月女子師範生徒第六級拾五名（官費）第七級拾五名（一學期間私費）試業ノ上入學ヲ許ス志願者ハ左ノ資格相心得當校（七月三十一日迄ニ）又ハ各地方廳ヘ詳細ノ學業履歷書相添願書差出スヘシ尤各地方ノ志願者ハ其地方廳ニ於テ試業ヲ施行ス

資格　年齡十六年以上二十五年以下ニシテ體質健康在學中家事ニ係累ナク卒業ノ後女兒小學校教員タラント欲スル志望ヲ具シ品行端正ニシテ小學科六箇年以上ノ課程ヲ卒リタル者若クハ之ニ相當セル學力ヲ有スル者

明治十六年七月　東京女子師範學校

○郵便船出帆廣告

本日午后二時半本局締切和歌ノ浦丸ヲ以テ神戸ヘ向郵便差立候事

本月十四日佛船タナイス號ヲ以テ香港印度歐羅巴ヘノ郵便物締切時限

府下郵便局　書留郵便物ハ午后五時　並郵便物ハ午后五時半

驛遞本局　郵便爲替ハ十三日午后二時　書留郵便物ハ午后六時半　並郵便物ハ午后七時半

横濱郵便局　書留郵便物ハ午后十時　並郵便物ハ午后十一時

明治十六年七月九日　驛遞局

第　8　号　本文